

第75次印旛地区教育研究集会
(社会科教育・中学校)

基礎・基本の定着による主体的に学習する態度の育成
～生徒が自主的、主体的に学習するようになるための手立てについて～

成田市立玉造中学校
小川克幸

はじめに

社会科の目標（学習指導要領より）

知識・技能

「公民としての資質・能力の育成」→ 思考・判断・表現 これら3観点から育成する。

学びに向かう力、人間性

公民としての資質・能力とは「課題把握」「課題追求」「課題解決」からなる。

本実践は生徒たちに「入試で点を取らせたい」と考えたことから始まっている。学習指導要領では、上記のように社会科の目標を設定している。しかし、千葉県公立入試では3観点のうち「知識・技能」と「思考・判断・表現」に大きく偏っている。

入試で点を取らせるためには、中学3年生を迎えたときに、社会科に対して「前向き」「肯定的」に捉えてもらう必要がある。なぜなら、膨大な勉強量を前にしたときに、こうした感情がなければそもそも勉強をする気にならないからである。

本実践では「生徒たちが自主的、主体的に学習するための手立て」ということについて研究、実践している。

1 研究主題

基礎・基本の定着による主体的に学習する態度の育成

～生徒が自主的、主体的に学習するようになるための手立てについて～

2 主題設定の理由

（1）学習指導要領より

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」とある。ここにある「社会的な見方・考え方」とは社会的な事象を様々な角度から捉え、その意味や意義、特色、相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握し、解決に向けて考察したりする際の視点や方法のことである。これを働かせるためには、「社会的事象に関する知識」や「社会的事象を分析するための技能」の習得が必須になる。こうした知識や技能を「社会科における基礎・基本」とし、これを定着させていくことで生徒は主体的に学習するようになるだろうと考える。

中学校学習指導要領解説-総則編-(平成29年告示)では、改訂の経緯及び基本方針（2）改訂の基本方針②育成を目指す資質・能力の明確化には「…このため「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考

力・判断力・表現力等」の育成)」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱に整理する」とある。つまり、知識・技能の習得なくしてはその後の学びにはつながっていかないのである。未来社会を切り拓くための資質・能力を育成するための第一歩として、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成することを念頭に指導していくことが重要である。

(2) 印教研の研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

印教研社会科学研究部では主題設定の理由(2)に「児童生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力を培うことはこれからの社会の急激な変化に対応するために必要なことだと考える。」とある。社会科学研究部においても基礎・基本の定着を重要視しており、これを踏まえて本研究の主題を設定した。

(3) 生徒の実態より

本校は成田市のニュータウン地区にあり、昨年度で開校40周年を迎えた。全校生徒名(全9学級、特別支援学級含む)で構成されている。学区には3つの小学校があり、玉造小学校、神宮寺小学校の児童は減少しているが、近年になり開発が進んでいる下総松崎地区にある八生小学校では増加している。

本校では、一昨年度より「学び合い学習」に取り組んでいる。各学級で生活班とは別に、学び合い班(原則4人編成)を作り、全教科で活用している。社会科の授業においては、社会的事象に対する考察や意見交換、発表資料の作成などで活用している。この中で、一問一答形式の発問には各班で協力して答えようとする姿勢が見られるが、事象に対する説明を求めたり、自分の考えを述べたりする活動には消極的である。また、こうした活動の中で、自分たちの説明や考えに既習事項の知識が含まれておらず、単なる感想になってしまうことが多い。

昨年度末に全教科を対象に実施した授業評価アンケートの結果を見ると、社会科の授業に対してはおおむね肯定的に捉えているようである。評価が低い生徒の回答を見ると、「点数が低い」「人前で発表をするのが嫌だ」というものがあつた。これを踏まえ、基礎・基本の定着による成績向上を目指すとともに、言語活動の充実によって、発表活動への障壁をなくそうとする取り組みを実施している。

昨年度末に実施した、総進図書による実力テストの結果を見ると、基礎・基本の定着が芳しくないことが分かる。これは、予習・復習といった学習習慣が確立されていないことや、テスト前の勉強不足によるものだと考えられる。また、授業内での知識定着がなされていないことも大きな要因であるだろう。限られた時間の中で、いかに知識を定着させていくことができるのか、本実践ではそのための手立てについて研究している。

昨年度末の評価データ（抜粋）

あなたはこの授業に総合的にどの程度満足していますか

(1・・・とても満足している 1・・・満足していない)

評価の平均	3.75			
4段階評価	4	3	2	1
各評価の数	74	13	5	0
各評価の割合	80%	14%	5%	0%

評価が2であった生徒のコメント

なんかうーんわかんない
歴史が難しい
いい点数が取れていないから
わからないから
発表するのが嫌だ

昨年度末の実力テストの結果(現2年生)

教科	国語	社会	数学	理科	英語
県平均	47	49	52	55	62
本校	44	41	49	47	54

3 研究目標

- ①基礎・基本の定着には教師がどのような手立てを講じればよいのかを明らかにする。
- ②基礎・基本の定着によって、生徒が主体的に学習するようになるのかを明らかにする。

4 研究仮説と研究方法

【仮説】

基礎・基本が定着すれば、生徒は主体的に学習していこう。

社会科という教科の「基礎・基本」の定着の程度は

- ・テストの点数が取れるか
 - ・社会的な見方や考え方が出来るか
- という2つの観点から判断する。

テストの点数では「社会科における基礎・基本」なのか「単なる暗記力」なのかの判断がつかないからである。よって、「社会科という教科における基礎・基本が定着した」と判断する基準は

- ・習得した知識や技能を用いることが出来る。
 - ・社会的な見方や考え方が出来る。
- という2つとする。

また、社会科における「主体的に学習に取り組む態度」の定義は「社会的事象を多角的に考察し、課題解決に積極的に取り組み、学習したことを社会生活に活かそうとする姿勢」を指している。考察や問題解決のためには知識や技能の定着が必須である。ということは生徒の気持ちや心情としても、教科の評価基準の構成としても、

「習得した知識や技能を用いて、社会的な見方や考え方が出来るようになることで」

「基礎・基本が定着すれば、生徒は主体的に学習していこう。」の証明になる。

【手立て1】

中学1年生を対象に、学習指導要領にある「社会的な見方や考え方」の基礎を養う。世界の諸地域アジア州～オセアニア州にかけて同じ形式のワークシートを使用し、その記載内容が変化していけば、「社会的な見方や考え方」ができるようになると思う。

【手立て2】

毎回の授業で振り返りシートを記入させる。前時の復習問題に取り組ませる。このサイクルを続けていくことで「基礎・基本」が定着していくことができると考える。

【手立て3】

授業の中で、生徒が落ち着いて考える時間や話し合う時間を設定し、既習事項をインプット、アウトプットさせたり、社会的な事象について考えさせたりし続ければ「基礎・基本」が定着していくと考える。

【手立て4】

毎回の授業で自分が気になったニュースについて1分間スピーチを行う。この原稿の中に「これまでに学んだことを可能な限り絡めること」という条件をつけることで、既習事項と現在の社会的な事象を結びつけることになり、「基礎・基本」が定着していくと考える。

5 各仮説の検証及び結果(成果と課題含む)

【手立て1】について

ワークシートへの記入は、単元の始まりの授業で、現時点で持っている、知っている知識を用いて「仮説」を立てさせる。この仮説が正しいかどうかについて単元を追うごとに検証させ、最終的に「結論」を記入させるというサイクルとした。

こうした学習のスタートにアジア州を位置づけた。また単元を貫くテーマとして「なぜアジア州の経済が発展したのか?」というものを設定した。これは地理、歴史、公民の全ての分野に共通して「経済」という視点をもつことが事象の理解につながるからである。

当初の仮説には「資源」「観光」「人口」という言葉が断片的にちりばめられていたが、それらがなぜ経済発展につながっているのか、という説明はほとんど見られなかった。しかし、単元末に記入させた結論には「資源が豊富にあるから様々なものの生産することができる。また生産したものを買ってくれる人がたくさんいる。」や「工業化に成功すると工場がたくさんできる。工場では多くの人が働けるようになるので経済が発展する」という記述が見られた。

このような知識や社会的な見方は、これ以降の学習にも反映された。ヨーロッパ州では単元を貫くテーマとして「なぜヨーロッパでは地域的な結びつきが強いのか」というものを設定した。初回に立てさせた仮説の中には「工業化が進む中国に対抗するため」や「単独ではアメリカや中国に対抗できないから」という記述が見られ、社会的な事象を相互に関連付けることが出来る生徒が徐々に増えてきた。単元末の結論には「限られた資源を共同利用するため」や「共通の通貨を使うことで経済的な結びつきを強めるため」といった記述が見られた。

九州地方の単元で水俣病を扱った際には、工場が稼働を停止するまで期間を要したのはなぜか?という問いに対して、「工場があることによって雇用が生まれるから」「工場が稼働を停止すると、地域の経済が滞ってしまうから」などといった記述が見られた。これは、1年次に学習した「経済」という視点から、水俣病の背景を「考えることが出来た」と評価することができる。

一方で、こうした記述の変化がなかった生徒も一定数いた。学び合い班での活動を見ると、発問に対する答えを班員が教えてくれるのを待っていたり、例え自分で答えを書いていたとしても、班員の答えに書き直してしまったりする姿があった。

【手立て2】について

授業後、学習課題に対する自分なりの答え(まとめ)を Google フォームで送信し、これをスプレッドシートと連携させて、学習の振り返りが積み重なっていくようにした。また、このスプレッドシートに授業ごとに復習問題を送信し、授業の始まりで前時の復習を行った。

これについてはほとんど成果を上げることができなかった。平均点、正答率ともに向上が見られた部分ほぼなかった。これは知識が定着していない状態で各単元のまとめを記入させてきたこと、前時の復習問題の内容が一問一答形式であったことが原因であると考えられる。

また、まとめの記入にタブレットを使用したことも成果が上がらなかった原因であると考えられる。近年、大規模な ICT 教育を進めてきた北欧諸国が「脱デジタル」の方向に舵を切っている。これは、ICT 教育を積極的に導入した結果、学力が低下していった…という背景がある。

これらを踏まえ、【手立て3】を実施することにした。

【手立て3】について

授業用プリントを毎時間作成し、記述形式で答えさせる問題を必ず設定した。※以下、問題例

単元 江戸幕府の成立と支配の仕組み

問題 「これだけの大名を統率するには何が必要だろうか」

単元 鎖国下の対外政策

問題 「1609年に薩摩藩が琉球王国を征服します。しかし、幕府はこの事実を諸外国に隠します。一体、なぜでしょうか？」

解答に際しては、まずは自分で考えを記入させ、それを学び合いの班で共有し、最後は全体場で発表させるというサイクルで行った。基礎・基本の定着に一番効果的だったのは、【手立て3】であった。校内の定期テストではあるが、今年度中学2年生になる生徒たちは平均点が51点から67点へ上昇した。生徒の答案を分析すると、記述問題への正答率が明らかに向上しており、導入前は正答率が約48%ものが、導入後は約65%に上昇した。※中1三学期の定期テストから、中2一学期の定期テストへの変化。

また、以前は自分の考えを発表することができなかった生徒も、学び合い班で考えを共有する時間を取ったことで、少しずつではあるが、全体で発表をすることが出来るようになっていく…という効果も見られた。また、今年度1学期末に実施した授業評価アンケートでは、授業への満足度が上昇し、「分からない」や「発表が嫌だ」という記述もなくなった。これは、前述したサイクルを続けていった結果、知識が定着しただけでなく、発表への障壁がなくなったからであると考えられる。

あなたはこの授業に総合的にどの程度満足していますか

(4・・・とても満足している 1・・・満足していない)

評価の平均	3.86			
4段階評価	4	3	2	1
各評価の数	83	14	0	0
各評価の割合	86%	14%	0%	0%

しかし、成果として挙げた点数の上昇は「あくまで校内の定期テスト」であり、これが「学力テスト」や「実力テスト」になった時に、同じような成果になるとは限らない。こうした手立てを継続していき、本研究が正しい成果を得られるのかどうかを確認していきたい。

【手立て4】について

1分間スピーチは現在も続いている。全員が発表を終えているわけではないが、既習事項を絡めた発表がいくつか見られている。例えば、「令和の米騒動」について発表した生徒は、徳川吉宗が行った享保の改革にある「上米の制」を取り上げていた。また、「トランプ大統領の対中政策」を取り上げた生徒は、ヨーロッパ州で学習した「関税」を取り上げていた。

※ここからの記載についてはアンケート等を取ったわけではないので、個人の主観になります。

さまざまなニュースを授業の初めに聞き続けることで、世の中に対する関心が高まったように感じる。例えば、7月の参議院議員選挙についての話を授業中にしたときは、これまでは政党の名前すら覚えていなかった生徒たちの中から、各政党の公約について言及することができる生徒も何名か出てきた。これは発表したニュースの中に「物価高」や「減税」といったワードがあり、これが各政党の公約につながっていたのではないかと考えられる。

夏米飯

【手立て1】に使用したワークシート 社会科を得意とする生徒の変化

単元名 世界の諸地域 アジア州

単元を通したテーマ「アジア州で経済が発展したのは何故か？」

この単元のキーワード 日本…税金、寿司 タイ…タイ料理 中国…人口、土地 インド…カレー、この発展
シンガポール…金融地 韓国…芸能

仮説 記入日 9月18日

各国、自分の国の個性を伸ばし、政治や教育などの質を高めたから。

記入日 9月20日

アジア州

仮説には経済が発展した要因について「自分の国の個性」という表現を使って説明している。

結論では、アジアの諸地域ごとの経済発展の要因について言及している。

結論 記入日 10月4日

仮説にあったこと
気になった意見等

仮説はあはあってなかった。
西アジア、中央アジアは石油資源の輸出で経済を発展させ、
インドはICT産業を発展させ、それ以外の国は自国の工業化を
進めるため、外国企業の受け入れを積極的に拒み、
工業成品の生産を盛んにした。

仮説 記入日 10月8日

結論に書かれたこと
気になった意見等

結がいた方が、経済+政治の面でいいことが
多いから。

記入日 10月8日

学習課題 ヨーロッパではどのように統合が進められているのだろうか。

ヨーロッパ州

結論に書かれる内容がヨーロッパ以外にも広がっている。

早い段階で記述の内容が変化した。

10月17日

- ・近隣の国があらわれて、戦争を起こさないようにするため
- ・東西の経済格差をなくすため
- ・アメリカ、中国、ロシアに対抗するため(経済的、軍事的)
- ・貿易を活性化するため、関税をなくす
- ・パスポートなしで国境を渡られる。

・通貨の通貨
ユーロを使う

【手立て1】に使用したワークシート 社会科を苦手とする生徒の変化

単元を通したテーマ「アジア州で経済が発展したのは何故か？」	
この単元のキーワード 町をきれいにして観光客に来てもらうために発展した	工場がたくさんある 技術者も多い 観光客が多い（その国の特色）
仮説 記入日 9月12日	疑問に思ったこと 気になった意見等 工場がたつてん ある。技術者 多い
工場がたくさんあって物を作る技術があるから発展した	

アジア州

仮説の内容、結論の内容を自力で書くことが出来ず、教師の例文をもとに作成していた。

記述内容が変化するまでに時間がかかった。

結論 記入日 10月4日	疑問に思ったこと 気になった意見等
経済が発展するためには、工業化していく必要がある。 必要な要素は、高い技術力 安く豊富な労働力を生かして、工業が発展 していく。製品の原料やエネルギー源となる 石油や鉄鉱石、高い技術力	

単元を通したテーマ「アフリカ州の経済発展に差があるのはなぜか？」	
この単元のキーワード	
仮説 記入日 12月3日	疑問に思ったこと 気になった意見等 砂漠が多いから 農業や牧畜が盛ん にならない 人口が少
赤道から離れていくにつれて発展している？ 気候の差が大きいから。 工場をつくる資金がない。	
記入日 12月6日	

アフリカ州

仮説を自力で書くことが出来るようになった。緯度の高さや気候の違いにも着目できるようになった。

結論には仮説への結論ではなく、「単元全体へのまとめ」というニュアンスのものを書いてしまっていた。

結論 記入日 12月10日	疑問に思ったこと 気になった意見等
アフリカは、金や銅、ダイヤモンドの鉱資源が豊富で、20世紀後半からは、アフリカの鉱産物や石油が注目をされるようになったり、都市化や人口増加しているため、食料不足になったり、都市部では貧困や犯罪が増えている。	
アフリカ連合(AU)の2002年の目標として、 野生動物(減)	

【手立て1】で使用した指導案

第1学年B組 社会科学学習指導案

指導者 小川 克幸
展開場所 1年B組教室

1 単元名 第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野内容 B「世界の様々な地域」の中項目(2)「世界の諸地域について、①～⑥の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。」を受けて構成したものである。

アジア州の範囲は広大であり、ユーラシア大陸の大部分を占めている。多種多様な自然環境の中に、世界の総人口の約6割が生活していることから、産業、民族、生活・文化など様々な面で多様性に富んだ地域であるといえる。

近年、アジア州の各地域での経済成長が顕著である。第二次世界大戦後にいち早く工業化に取り組んだアジア NIES を初め、「世界の工場」と呼ばれる中国、地域的な結びつきを強め、外国企業を積極的に誘致している東南アジア、人口が世界一となり、市場規模を拡大するインド、豊富な鉱産資源を保有する西・中央アジアなど、アジア全域で経済成長を続けている。

こうしたアジア全域での経済成長や各地の地域的特色に関する資料が豊富な本単元は、3年間を通した社会科学学習の根幹になると考え、グラフの読み取りや、資料の活用方法を学びながら、社会的な見方、考え方の基礎を養う単元とする。

(2) 生徒の実態

本学級は、男子名女子名計名である。明るく素直な生徒が多く、教師からの問いかけに対する反応も良い。授業では、話を聞く場面と活動する場面のけじめがついており、ノートの整理もきれいにしている。わからない問題を学び合うことができる生徒が多い。周りに積極的に訊ける生徒が多い反面、教師の声掛けがないと活動できない生徒も数名いる。第1回定期テストの平均点は男子が66.3点、女子が64.6点となっている。

学期に1度実施している全教科を対象にした授業評価アンケートでは、社会科に対する評価は4段階の平均値が3.8を超えており、授業に満足しているようである。しかし、基礎・基本の知識や技能が全員に定着しているわけではなく、定期テストの結果に大きなばらつきが見られる。中学1年生の今のうちに、基礎・基本が確実に定着していくよう、粘り強く指導していきたい。

(3) 指導観

本学級の生徒は、複数の社会的事象を基にして論理的に考えさせる活動に課題がある。そこで、本単元を通して生徒には、複数の情報を結びつけ、多面的・多角的に物事を考察する力や社会的事象について論理的に説明する技能を身に付けさせたい。上記の実態を踏まえ、複数の資料から必要な情報を関連付け読解する活動や、ワークシートに書いたことを基に、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図る。

これをもとに、学級全体で発表活動を行い、多くの人の意見を共有する機会を設定することで、自分の考えを深める際に、他者の意見を取り入れながら社会的事象をより多面的・多角的に考察するようにさせたい。そして、話し合い活動を通して合意形成していく学習活動を積み重ねることにより、自ら社会に関わろうとする意識を高めていきたい。

また、より多くの視点から学習内容を精査、考察するために成田市が作成した授業力タブルアップシート（実践モデルプログラムを活用した授業のためのチェックシート）を活用する。これにより、教科横断的な指導を実現していきたい。

3 単元の目標

- ・アジア州の経済成長について、グラフ等の資料を活用しながら、各地の地域的特色に基づいていることを理解することができる。(知識及び技能)
- ・アジア州の経済成長について、地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・アジア州の経済成長について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

4 指導と評価の計画（7時間扱い）（本時1／7）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
見いだす	1／7 (本時)	アジア州の経済発展 ・経済の仕組みについて大まかに理解する。 ・アジア州の経済が急速に発展した要因について仮説を立てる。	・経済の仕組みが生産、販売、消費によって構成され、この過程でお金が発生することを理解している。 (知識及び技能・ワークシート) ・アジア州の経済が急速に発展した要因について資料などを基に仮説を立てることができる。 (思考力、判断力、表現力・ワークシート)
学習課題 アジア州の経済が発展した要因について仮説を立てよう。			
広げ 深める	2／7	アジア NIES の成長 ・アジア NIES の輸出の様子や変化から工業化の進展を読み取る。	・アジア NIES の輸出品の内訳のグラフや輸出品の変化のグラフから、アジア NIES の工業化の様子を読み取ることができる。 (知識及び技能・ワークシート)
広げ 深める	3／7	巨大な人口が支える中国 ・写真やグラフから、中国経済の発展の様子を捉え、その背景を考察する。	・中国の工業化が進んだ理由を、経済政策と人口の観点から考察している。 (思考力、判断力、表現力・ワークシート)
広げ 深める	4／7	都市化が進む東南アジア ・東南アジア諸国における農村から都市への人口移動とその課題を捉える。	・東南アジアの農村と都市の変化について、農村から都市への人口移動、都市問題などの視点から考察している。 (思考力、判断力、表現力・ワークシート)
広げ 深める	5／7	急速に成長する南アジア ・インドにおける経済発展と都市の変化の実態を、写真、グラフなどを通して捉える。	・写真やグラフなどの資料から、インドの工業発展や人口増加の様子とその問題点を捉えている。 (思考力、判断力、表現力・ワークシート)
広げ 深める	7／6	資源が豊富な西アジア・中央アジア ・西アジアや中央アジアの経済発展の共通点を、アジア内の他地域と比較して考察する。	・資料から西アジアや中央アジアの経済発展の共通点について考察し、それを適切に表現している。 (思考力、判断力、表現力・ワークシート)
まとめ あげる	7／7	今後の日本の経済政策 ・今後の日本はどのような方策で経済を発展させていくべきかを考える。	・アジアの経済発展の要因を踏まえ、今後の日本がどのような方策で経済を発展させていくべきかを考察し、表現することができる。 (思考力、判断力、表現力・ワークシート)

5 本時の指導

(1) 本時の目標（1／7）

- ・経済の仕組みが生産、販売、消費によって構成され、この過程でお金が発生することを理解することができる。(知識及び技能)
- ・アジア州の経済が急速に発展した要因について資料などを基に仮説を立てることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導 支援 ○評価	資料
7	【見いだす】 1-1 「経済」という言葉の意味を捉え、理解する。 ○経済とはどのような意味だと思いか。 ・お金関係のこと ・豊かさを表すもの 1-2 アジア各地の過去と現在の写真を提示する。 ○なぜこのような変化があったのだろうか。 ・経済が発展したから。 ・技術が発展したから	・経済とは人が生活するために必要なものやサービスを生産、販売、消費する関係であることを確認する。 ○経済の仕組みが生産、販売、消費によって構成され、この過程でお金が発生することを理解することができる。(知識及び技能・ワークシート) ・アジア各地の過去と現在の様子が分かる写真を提示し、変化の要因の一つが経済成長であることを確認する。	
	アジア州の経済が発展した要因について仮説を立てよう		
28	【自分で取り組む】 2 アジア州に経済が発展した要因について仮説を立てる。 ・人口増加 ・豊富な資源 ・都市化 など 【広げ深める】 3 ワークシートをもとに、班で自分の考えを発表し、話し合う。	・ワークシートを使い、経済発展の要因に関わるキーワードを書き出す。 ・キーワードを書き出せない生徒には、導入で使った写真を参考にするよう伝える。 ・書き出したキーワードを共有する。 ・なぜそう考えたのか、理由も必ず発表させる。	ワークシート
10	4 友達の意見も踏まえ、キーワードを用いて文章化する。	・ワークシートに経済発展の要因について自分の仮説を記入する。	
5	【まとめあげる】 5 学習のまとめを行う。	○アジア州の経済が急速に発展した要因について資料などを基に仮説を立てることができる。(思考力、判断力、表現力等・ワークシート) ・本単元を通して、自分が立てた仮説を検証していくことを確認する。	
	人口増加 都市化 資源 貿易 工業化 ICT 教育 等の整備		

(3) 板書計画

Q.経済とはどのような意味か？
どんなイメージを持っているか？

アジア州の経済が発展した要因について仮説を立てよう

A.お金のこと 商売のこと

キーワード

人口、都市化、資源、貿易、工業、ICT、教育

ものすごく簡単に説明すると…

↑これらのキーワードを使って文章で仮説を立てる

ものをつくる もの売る ものを買う
(生産) → (販売) → (消費)
このやりとりが活発になっていくと
経済が発展したといえる。

仮説

--

社会科 振り返りシート

日付	単元名	学習課題	学習課題に対して分かったこと	学習課題に、つづいて学習する課題		確認問題
2024/04/17	1 地形から見た日本の特色	日本の地形にはどのような特色があり、地形によってどのようなちがいがあろうか。	日本は地震が多いため、大地の変動も多く起きること。他にも流れる水などで地形が変わることがあった。	3	4	- 日本は東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/04/18	2 気候から見た日本の特色	日本の気候にはどのような特色があり、地形によってどのようなちがいがあろうか。	日本は温帯に属しているが、地域によってそれぞれ降水量の違いや晴れる日などが異なっていた。	4	3	- 日本の気候は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/04/24	3 自然災害と防災・減災への取り組み	日本にはどのような自然災害が頻り、防災の取り組みがどのように行われているのだろうか。	日本は災害が多く、特に地震による被害が多い	4	3	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/04/25	4 人口から見た日本の特色	日本の人口の分布や構成にはどのような特色があり、どのように変化しているのだろうか。	少子高齢化が進んでいることや、人口密度に偏りがあり、人口の差が激しくなっていること	3	3	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/04/26	5 資源・エネルギーから見た日本の特色	日本が豊富な資源やエネルギーはどのように確保されているのだろうか。	日本に、山地が多いことを生かした水力発電や鉱産資源を燃料とした火力発電を使ってエネルギーを確保していること	3	3	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/05/01	6 産業から見た日本の特色	日本の産業にはどのような特色があり、どのように変化しているのだろうか。	日本の食べ物ほとんど輸入に頼っており、第三次産業が盛んである	4	3	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/05/02	7 交通・通信から見た日本の特色	日本にはどのような交通・通信網が発達し、どのような結びつきがあるのだろうか。	様々な交通網の整備が発達し、日本各地が高速交通網で結ばれていること	3	3	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/05/08	1 九州地方をながめて	九州地方の特色を大まかに捉えよう。	九州地方は火山活動が活発で年間を通して、降水量が多いこと	3	3	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/05/10	2 自然環境に適応する人々の工夫	九州の自然環境の中で、人々はどういう工夫をしながら暮らしているのだろうか。	九州地方は火山灰や風雨が多いことから、防災袋や強い家造りなどの対策を多く行っている	4	4	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/05/14	3 自然の制約の克服と利用	九州地方の人々はどういう自然環境に順応しているのだろうか。	火山の恵みを利用した温泉や暖かい気候を生かした畑作などを行っている	3	3	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/05/29	4 持続可能な社会をつくる	九州地方では持続可能な社会の実現のためにどのような取り組みが行われているのだろうか。	過去に公害が起こったことを生かしてエコタウンをつくり、細かい取り組みなどが行われている	3	4	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。
2024/05/31	1 江戸幕府の成立と支配の仕組み (p.114~115)	江戸幕府はどのように全国を支配したのだろうか。	幕府体制や参勤交代などこれまでにない経済基盤を持っていた	4	4	- 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。 - 日本は、東洋や中東の国々よりも、西の国々や北米の国々と同じくらい、山が多い。